

献呈の辞

溝田誠吾先生の定年ご退職に寄せて

溝田誠吾先生は、平成26年3月末日をもって、定年によりご退職なさいます。専修大学における在職期間は、39年と大変長きにわたります。これほどまでに専修大学にご貢献いただき、ご定年を迎えられたことは、大変うれしく、またおめでたいことです。しかしながら、規則とはいえ、本学の教壇から離れることは、寂しくもあり、また、残念なことです。とりわけ、現在の大学が直面している課題に照らすと、溝田先生の鋭い着眼点、豊かな発想力を本学が失うことは、大きな痛手であることは言うまでもないことです。ここに溝田先生のご略歴と本学や社会へのご貢献を紹介し、本学を代表し、感謝の意とともに、惜別の念を表します。

溝田誠吾先生は、1943年8月に佐賀県でお生まれになり、1970年3月に長崎県立国際経済大学経済学部をご卒業なさいました。ご卒業後、4月に立命館大学大学院経営学研究科修士課程に進学し、そのまま博士課程へと進まれ、1975年3月に単位取得後、4月に専修大学に専任講師として入職なさいました。1978年4月に助教授昇格、同年7月に立命館大学より経営学博士号を取得、1984年4月に教授へ昇格し、来年3月末に教授在職期間は30年をもって、定年退職なさいます。その間、横浜商科大学、武蔵大学、新潟経営大学、上海外国語大学、北京财经大学、東南大学（中国・南京）で非常勤講師もされております。

これまで、単著、編著、共著は、20冊以上にもおよび、その分野は、アメリカ鉄鋼独占史、鉄鋼のユーザーである造船、自動車、電気機械の研究、そして、「小さな」世界企業と航空機産業論と多岐にわたります。これらの研究は、名古屋市立大学経済学部（1985年4月1日から1986年3月31日）、香港大学（1994年9月1日から1995年8月31日）、名古屋外国語大学（2009年4月1日から9月10日）と3回の国内外の留学、また、日本経営協会「経営科学研究奨励金」や代表ならびに連携研究者として取得された文部科学省科学研究費の成果であることを推察することができます。

このように研究にご熱心に従事されながらも、学内外で様々なご活動をなさっていただきました。2000年4月から翌年3月まで経営研究所所長、2000年4月から2004年3月まで体育部長の要職を勤められました。また、2001年4月から2014年3月まで相撲部部長の任にあり、学生スポーツを心から応援しておられました。学外に目を向けると、財団法人朝日中小企業経営情報センター評議員、社団法人日本鍛造協会「鍛造マネージャー育成塾コース」講師、日本学術振興会奨励研究部会委員等、溝田先生は、幅広くご活躍されております。

溝田先生は、大変なアイディアマンであり、大学として取り組むこと、また、学部で取り組むこと、研究所として取り組むこと、様々な場面で、幅広い見識をいかんなく発揮されてこられました。とりわけ、実際の企業の現実をつぶさに観察してきたご経験から、実践的なご提案には周囲の方々はその先見性について来られないほどであったと思っております。

以上、溝田誠吾先生のご活動の一端を紹介させていただきました。先生の研究上、教育上、学内運営上など様々な側面でのご功績は大変顕著なものがあり、経営学部は、平成25年11月12日の教授会にて、満場一致で、溝田先生を専修大学名誉教授に推薦させていただきました。ここに溝田先生

から様々な形でご指導をいただいた後輩教員の最近の研究成果を募り、「専修経営学論集第98号」を「溝田誠吾教授退職記念号」とし、溝田先生に謹呈し、経営学部教員一同、深甚なる謝意と惜別の意を表する次第であります。

溝田先生が定年ご退職後も健やかであり、ご活躍なさを祈念するとともに、本学ならびに本経営学部さらなるご指導とご鞭撻をお願い申し上げ、これまでのお礼とお別れのことばとさせていただきます。

平成26年 3 月

専修大学経営学部長 馬場 杉 夫